

.....  
特集：eラーニング

## "三重大学 Moodle" を 利用した利用者講習会

.....  
峯 澄子・柴田佳寿江  
.....

### はじめに

三重大学では平成17年度後期から全学のe-learningシステムとしてCMS: Course Management Systemの一つであるMoodleをカスタマイズし、e-learningシステム"三重大学 Moodle"(以下 Moodle という)の運用を開始した。三重大学附属図書館では運用開始当初から Moodle を導入し、ネット上のコミュニケーションツールを活用した講習会を通して、学生どうし、学生と図書館、図書館と教員のコミュニケーションを活性化しようとしてきた。ここでは、その事例を紹介する。

### Moodle を導入した講習会

2009年度には、共通教育の初年次科目「情報科学基礎」等における図書館講習会23コマを Moodle 上で実施した。また、2010年度は新入生全学必修科目「4つのカスタートアップセミナー」における図書館ツアー(全70回)の予約を Moodle の機能を用いて実施している。

### 講習会の実施内容

#### 1. 事前及び事後のアンケート

講習会前アンケートは学生の現状を知ること、到達目標を示すことを目的に行い、講習会後アンケートは理解度を把握するためにやっている。

#### 2. テキスト

テキストはパワーポイントで作成し、講師が前のスクリーンで操作しながら説明をしている。パワーポイントのファイルをPDF化して Moodle にもファイルをアップロードしているため、学生は講師の説明を聞きながら、手元のパソコンでPDFのテキストを参照可能である。

#### 3. 課題

検索実習課題を Moodle の【アンケート】モジュールや【課題】モジュールを使って行っている。

講習会前後に行っているアンケートと同じ【アンケート】モジュールで多肢選択式の課題を行い、学生の回答結果をリアルタイムでグラフ表示しながら解説を加えることで教室全体に一体感が生じ、課題遂行のモチベーション向上に役立っている。

【課題】モジュールを使用した実習課題では、Web上で直接回答を書き込み、提出してもらう。このモジュールでは提出された課題に対して、講習会後に添削・コメントをつけて Moodle 上と電子メールで返信することができ、本人へのフィードバックが容易に行えるようになった。

#### 4. 小テスト

2010年度から、講習会の内容に関する学生の理解度を確認するために小テストを始めた。

小テストを行うことで、講習会中の緊張感を保つことができる。【小テスト】モジュールでは問題の解説を提示することや回答時間の設定も可能で、結果を教員と共有することもできる。

#### 5. 予約

【スケジューラー】モジュールを使用して図書館ツアーへの予約を受け付けた。当初予約人数の上限が9人であったが、Moodle管理担当教員に相談し60人まで対応可能となった。図書館側で参加人数をあらかじめ知ることができ、準備をスムーズに行うことができた。

#### 検索窓の追加

2009年度から、学生がMoodleで学習する際に図書館のツールとして使える統合検索窓(ISee)を設置している。ISeeは、各種データベース等20種類以上のツールを同時に検索することができるもので、Moodleに設置した検索窓ではその中から三重大学術機関リポジトリMIUSE、三重大OPAC、CiNii、Webcat Plusの4つのデータベースを使って検索する。これによりe-learningシステムとしての利便性を格段に向上させている。

#### e-learningシステムのメリット

利用者講習会にe-learningシステムを導入することによって、コミュニケーションの活性化、業務の省力化という点でメリットがあった。

コミュニケーションの活性化については、アンケート機能は即時にグラフ化して表示できるので、講習会中に学生の状況や反応を知り教室全体で共有することができる。課題や小テストについても、学生の進捗状況や理解度がリアルタイムに確認でき対応がしやすくなった。アンケートや小テストの結果は教員とリアルタイムに共有することもできる。またMoodle上にテキストを掲載することにより、学生は講習会後もいつでも資料や課題を参照できる。講習会を欠席した学生も、内容を確認することが可能になった。

業務の省力化、経費節減の面ではMoodle上で行ったアンケートや小テストなどがダウンロード可能であるため、集計業務が省力化

された。これまで配布していたアンケート用紙も不要となり印刷用紙の節減ができた。また、インポート機能を使うことにより、作成したコースをコピーして再利用することが可能であるため、同じ流れで講習会を行う場合には効率よくコースを作成できた。

#### これからと感想

ここまでMoodleを活用した図書館情報リテラシー講習会について述べてきた。導入から現在まで様々なハードルを乗り越えてこられたのは、図書館からの要望を聞き入れ、機能拡張やトラブル対応などMoodleを管理する教員によるサポートがあったからである。

先に述べたツアー予約でのモジュール変更のように、図書館の新しい取り組みに対してMoodleの機能拡張や変更等の相談窓口として大きな支援が得られた。また、図書館は利用者の立場として気付いた情報を報告し、Moodleの改善に協力をしている。

今後もこのような教員のサポートを得ながら、新しい取り組みをしていきたい。三重大学Moodle上には、動画配信など先進的な取り組みをしている教員もいる。そのような教員の活動を参考にし、より良い方法を模索していきたい。

#### 参考文献

- 1) 三重大学 Moodle. <http://portal.mie-u.ac.jp/moodle/>, (参照 2010-07-29)
- 2) 杉田いづみ, 柴田佳寿江, 荒木奈々美. e-learning システム“三重大学 Moodle”を活用した図書館情報リテラシー講習会. 薬学図書館. 2007, vol. 52, no. 3, p. 246-253.

(みね・すみこ、しばた・かずえ)

三重大学学術情報部情報図書館チーム)